

【田原市博物館 テーマ展】

華椿系画家たちの花鳥風月

令和7年2月15日(土)～4月6日(日)

花鳥風月とは、美しい自然の景色などを指します。本展では、華椿系画家が描く花や鳥、景色などをご覧ください。

展示室 特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
市指	わたなべかざん 渡辺崋山	しきさんすいがきつ 四季山水画冊	文化8(1811)年	紙本墨画淡彩	画帖	
	渡辺崋山	あきくさしょうきんず 秋草小禽図	文政元(1818)年	絹本着色	掛幅	
市指	渡辺崋山	ふうちくのず 風竹之図	天保9(1838)年	絹本墨画	掛幅	
	渡辺崋山	はいがきつ 俳画冊	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	画帖	
	わたなべしょうか 渡辺小華	かきんじゅにちょう 花禽十二帖	明治時代	絹本着色	画帖	
	渡辺小華	きゅうせいず 九清図	明治10(1877)年	絹本着色	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	くわげこううず 藕花香雨図	弘化2(1845)年	絹本着色	掛幅	
	椿 椿山	めいかじゅうゆうず 名花十友図	弘化4(1847)年	絹本着色	掛幅	
	おかもとしゅうき 岡本秋暉	せつちゅうかちょうず 雪中花鳥図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	
	岡本秋暉	はとうぐんきんず 波濤群禽図	安政2(1855)年	絹本着色	掛幅	
	岡本秋暉	かちょう りゅうず 花鳥・龍図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅	三幅対
	おだ ぼせん 小田莆川	くじやくず 孔雀図	江戸時代後期	紙本墨画	掛幅	
	小田莆川	こう か ぜんけいず 闔家全慶図	弘化元(1844)年	絹本着色	掛幅	
	のぐちゆうこく 野口幽谷	そうがん ず びょうぶ 双雁図屏風	明治時代前期	絹本着色	屏風	
	まつばやしけいげつ 松林桂月	し き さんすい 四季山水	昭和11(1936)年	絹本墨画淡彩	掛幅	
	しらいえんがん 白井烟嵩	そうしゅんほうぎゆう 早春放牛	大正～昭和時代前期	紙本墨画淡彩	掛幅	
	白井烟嵩	しゅんせつづ 春雪之図	昭和5(1930)年	絹本墨画淡彩	掛幅	

市指 = 田原市指定文化財

全て当館所蔵

田原市博物館

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びました。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛸社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を習います。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

小田莆川 文化2(1805)年～弘化3(1846)年

旗本戸川氏に仕える家の末子として生まれました。渡辺華山の弟子となり、兄弟子である椿椿山と深く交友しました。椿山から手ほどきを受けたため、莆川の花鳥画には椿山の影響が見られます。華山が蛸社の獄で捕らえられた際、椿山と共に華山救済のために奔走しました。

岡本秋暉 文化4(1807)年～文久2(1862)年

彫金家石黒政美の次男として江戸に生まれました。江戸の町人の出身母方の姓を継ぎ、小田原藩主大久保家に仕えました。はじめ大西圭斎に師事しました。写実的な作品を描き、華やかな花鳥画を得意とし、「孔雀の秋暉」と称されるほどでした。

野口幽谷 文政10(1827)年～明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を習いました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23年、橋本雅邦らとともに帝室技芸員に任命されました。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。

松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、野口幽谷の弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮と言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる帝室技芸員に任命され、昭和33(1958)年には文化勲章を受けました。

白井烟崑 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、新文展や戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。

<画題について>

名花十友

中国・宋時代の曾端伯が10種の花を選んで、10の友人になぞらえたもの。蓮…浄友、海棠…名友、菊…佳友、芍薬…艶友、梅…清友、梔子…禅友、茉莉…雅友、沈丁花…殊友、ドビ…韻友、巖桂(木犀)…仙友の組み合わせ。

闔家全慶

「慶」は「鶏」と同じ発音のため、一家の平和、家内安全などの意味がある。祝賀の画題として描かれることが多い。